

関西知財・無形資産ガバナンス・フォーラム 講演④ 杉浦淳教授「知的資産と知財教育」内容予測研究レポート

Gemini 3.7 Flash

1. フォーラムの開催背景と本講演の構造的位置づけ

2026年9月4日に大阪工業大学梅田キャンパスにおいて開催される「関西 知財・無形資産ガバナンス・フォーラム ～関西発 知財・無形資産ドリブン経営への変革～」(一般社団法人 知財・無形資産ガバナンス協会および大阪工業大学の共催)は、日本の産業構造ならびに企業ガバナンスのあり方における重要な転換期に設定されたシンポジウムである¹。本フォーラムが開催されるマクロな背景には、内閣府が策定した「知的財産推進計画2026」に基づく成長戦略分野へのIPランドスケープ (IPL) の実行推進と、金融庁によるコーポレートガバナンス・コード (CGC) 改訂に伴う新原則4-1の運用開始がある¹。新原則のもとでは、知財・無形資産が設備投資、研究開発、人的資本と並ぶ持続的成長のための不可欠な投資対象として明確化され、取締役会に対してその経営戦略の策定と開示が強く求められている¹。

こうした背景のもとで設計された本フォーラムのプログラムは、国家的なマクロ政策から個別企業の実践、そしてそれらを支える基盤整備に至るまで、論理的な一貫性を持って構成されている¹。

講演順序	講演タイトル	登壇者(敬称略)	フォーラム内での論理的役割と主要論点
開会挨拶	フォーラム開会挨拶	菊地 修(知財・無形資産ガバナンス協会理事長) 井上 晋(大阪工業大学学長)	フォーラムの開会宣言および「関西発知財・無形資産ドリブン経営」の趣旨提示 ¹
講演①	知的財産推進計画2026 ～成長戦略を支える知財戦略の推進～	清水 祐樹(内閣府知的財産戦略推進事務局 参事官)	国家レベルのマクロ政策、成長戦略分野へのIPランドスケープ実行およびCGコード改訂の意図説明 ¹
講演②	MPDP理論による中	高崎 充弘(株式会社	経営資源が限定的

	小企業活性化戦略	エンジニア 代表取締役社長)	な中小企業における知財・無形資産を活用した実利重視の経営実践モデル開示 ¹
講演③	経営に活かす知財の在り方を考える ～クリエイティブな知財部運営に挑むダイキン工業の取組み～	安部 剛夫(ダイキン工業株式会社 知的財産部長)	大企業における自律的・創発的な知財組織運営と企業価値向上に向けたイノベーション実践報告 ¹
講演④	知的資産と知財教育	杉浦 淳(大阪工業大学 知的財産学部 教授)	政策・企業実践を永続的に支える「人的資本(知財人財)」の育成と知的資産エコシステムの構築提示 [cite: 1, 2]
パネルディスカッション	「知財を経営に活かす人財」のあるべき姿	モデレータ: 川名 弘志 (KDDI) パネラー: 清水 祐樹、高崎 充弘、安部 剛夫、杉浦 淳	政策・経営・実務・教育の各知見を統合し、次世代知財経営人財像とガバナンスの将来像を議論 ¹

本プログラム構造において、杉浦淳教授による講演④「知的資産と知財教育」は、政策(行政)、中小企業(実利)、大企業(組織ガバナンス)の各講演を受けた後の総括的な位置づけにある¹。内閣府が推進する知財・無形資産ガバナンスや企業によるIPランドスケープの実践は、それを担う高度な知的財産知見と経営感覚を兼ね備えた人的資本が存在して初めて実効性を持つ¹。したがって本講演は、単なる大学の教育実践報告にとどまらず、ガバナンス・コードが要求する無形資産・人的資本投資を学術・教育の側面から構造化し、後続のパネルディスカッション「『知財を経営に活かす人財』のあるべき姿」へ論点をつなぐ重要な架け橋として配置されている¹。

2. 杉浦淳教授の研究・キャリア体系と知財観

杉浦淳教授の講演内容を正確に分析するためには、同氏の行政実務経験、学術的業績、および近年に展開している知財教育領域での研究成果を包括的に把握する必要がある。

1987年に特許庁に入庁した杉浦教授は、審査官、在モロッコ日本国大使館、財団法人知的財産権研究所研究部長、特許審査第一部アミューズメント審査監理官、審判部第三部門審判長などを歴任し、日本の特許行政および審判実務の現場で長年にわたりキャリアを積んだ⁷。特許庁退官後は、日本で唯一の知的財産専門学部・研究科を有する大阪工業大学に教授として着任し、知的財産学部長、知的財産研究科長、研究支援・社会連携センター長などの要職を歴任してきた⁷。さらに、知的財産大学院協議会(JAUIP)の理事長(会長)や日本知財学会知財教育分科会幹事、大阪発明協会理

事などを兼任し、日本における知財人材育成政策および高等教育プログラムの策定において指導的役割を果たしている⁹。

制度の運用者であった行政官としての視点と、制度の活用者を育成する大学教授としての視点を併せ持つ点が杉浦教授の知財観の基盤をなしている⁷。その論理展開は一貫して、法令の解釈や出願権利化にとどまる「守りの知財」から、企業の競争力強化や地域イノベーションに直接寄与する「攻めの知的資産・知財活用」へのパラダイムシフトを志向している¹⁵。

発表・掲載年月	論題・発表タイトル	掲載媒体・発表機会	主な内容説と本講演との関連性
2024年3月	大阪工業大学知的財産教育の20年：守りの知財から攻めの知財へ	『IPジャーナル』第28号 ¹⁵	日本初の知財学部設立から20年の歩みを検証し、単なる出願実務を超えた「経営・事業に寄与する攻めの知財教育」への移行を論証 ¹⁵ 。
2024年12月	大阪工業大学における知的財産教育の実践と基軸の構築について	日本知財学会 第22回学術研究発表会 ¹⁶	高等教育機関における知財教育のカリキュラム編成上の基軸と、実務即応型教育アプローチの体系化を提示 ¹⁶ 。
2025年9月	AIと知的財産教育ー知的財産教育のスコープと大阪工業大学での実践ー	『JAPIO Year BOOK 2026』 ¹⁶	生成AIの普及に伴う知財業務の変容を前提とし、AI時代に人間が果たすべき知財スキルの役割と教育の範囲(スコープ)を考察 ⁴ 。
2025年12月	知的財産教育のスコープ	『日本知財学会予稿集』 ¹⁰	初等・中等教育(知財創造教育)から大学専門教育、社会人リスキリングに至る知財教育体系の構造的展開を論理化 ¹⁶ 。

2026年1月	特許庁での仕事と大学での経験について	『特許庁技術懇話会誌』第320号 ¹⁰	行政における審査・審判経験と大学における産学連携・教育実践の融合から得られた知的財産制度の最適利用論を開示 ¹⁰ 。
2026年3月	AI時代における知的財産制度の基盤とこれから	関西弁理士会 講演 ¹⁷	AI実証実験成果に基づく特許権利化モデルの研究と、AI時代における知的財産制度および実務家の役割変化を明示 ¹⁷ 。

一連の業績から導き出される杉浦教授の関心領域は、「法的権利(IP)から経営リソース(知的資産・IA)への視座の拡張」、「AI時代における知財業務の変容と人間固有の知財スキルの再定義」、そして「知財教育の垂直的・水平的拡張(知財教育のスコープ)」の3点に集約される¹⁵。これらは本講演タイトル「知的資産と知財教育」の双方の構成要素と直接的に連動している¹。

3. 講演「知的資産と知財教育」の内容予測

過去の業績分析ならびにフォーラム全体の開催趣旨(知的財産推進計画2026、コーポレートガバナンス・コード改訂新原則4-1)を考慮すると、杉浦教授の講演「知的資産と知財教育」は以下の4つの核心的論点によって構成されると推測される¹。

3.1 「知的財産(IP)」から「知的資産(IA)」への視座転換

講演の冒頭において杉浦教授は、講演タイトルにあえて「知的財産」だけでなく「知的資産」という言葉を冠した経営学的・政策的意味合いを解き明かすと考えられる¹。

特許権や商標権などに代表される「知的財産(Intellectual Property: IP)」は、主に法的な独占権や差止権を基盤とした防衛的な機能、すなわち「守りの知財」として理解されがちであった¹⁵。これに対し、「知的資産(Intellectual Assets: IA)」は、法的な権利化に至らない技術ノウハウ、組織風土、顧客ネットワーク、経営理念、および人的資本を含む、企業価値を創出する無形資産全般を包括する概念である。

コーポレートガバナンス・コード改訂により、企業経営陣や取締役会には、単に出願件数を増やすことではなく、「自社の知的資産がいかに持続可能な企業価値や競争優位性を生み出しているか」を開示することが義務付けられた¹。杉浦教授は、企業がガバナンス改革を実効化するためには、知財部門が特許庁への手続機関から、自社の知的資産全体を俯瞰・発掘し、経営戦略と紐づける「知的資産参謀」へと進化しなければならないと指摘する²。この知的資産の視座こそが、経営層、知財部門、そして投資家をつなぐ共通言語になることが強調される見通しである¹。

3.2 生成AI時代の到来と知的財産人財スキルの再定義

本講演の極めて重要な論点となるのが、自律型・推論型AIの進化が知財実務に与える影響と、それ

に伴う知財教育の再定義である⁴。杉浦教授自身、科学研究費助成事業の研究課題として「AI実証実験に基づくハルシネーションを抑制した発明創作・特許権利化モデルの研究(2026～2028年度)」を推進しており、AIと知財実務の融合領域における知見を有している²¹。

2026年現在、生成AIは対話型から推論・自律行動型へと進化しており、特許調査、先行技術文献の分析、明細書の一次案作成などの定型業務・作業的スキルはAIによって大幅に効率化されている¹⁹。このような環境下において杉浦教授は、知財実務者が従来の「作業員(オペレーター)」から「コンテキスト・アーキテクト(文脈の設計者)」へと移行する必要性を主張するとみられる¹⁹。

業務・スキル領域	従来型知財人財(作業員モデル)	生成AI時代の知財人財(コンテキスト・アーキテクト)	AIと人間の役割分担に関する杉浦説の構造
調査・分析	先行技術検索および特許マップの作成 ¹⁹	経営課題・市場動向を踏まえた仮説構築と解釈 ⁴	AI: 大量データの高速抽出・一次分類 人間: 文脈の解釈と戦略的示唆の導出 ⁴
権利化・明細書	特許請求の範囲(クレーム)の文章起草 ¹⁹	発明の本質把握と事業防衛・多角化を見据えた権利網設計 ⁴	AI: 80点レベルの定型文章・ドラフト作成 人間: 精度要求度の判断、ビジネス適合性の補正 ⁴
経営貢献	他社権利侵害リスクの回避(防衛的FTO) ¹⁵	知的資産(ノウハウ・ブランド等)の組み合わせによる事業価値最大化 ⁴	AI: リスク要素の自動フラグ立て 人間: 経営層への意思決定支援とアライアンス交渉 ²

杉浦教授は、80点レベルの定型業務をAIに委ねる時代において人間が磨くべき強みとして、第一に多様な技術・市場情報を俯瞰できる情報接触量、第二に法的バックグラウンド、第三に技術の本質を捉える権利化力の3点を挙げる⁴。これらの能力の掛け算によって事業価値の最大化をリードできる人材こそが、ガバナンス・コード時代に企業から求められる「知財経営人財」であると位置づけられる²。

3.3 大阪工業大学の20年と「知的財産教育のスコープ」の全貌

概念論および時代背景を踏まえた上で、講演の後半では具体的な教育実践論が展開される¹⁵。大阪工業大学知的財産学部・研究科は、2003年の開設以来20年以上にわたり知財専門教育を推進してきた¹⁵。杉浦教授は、同校の教育実践の歩みを「守りの知財教育から攻めの知財教育への変

遷」として位置づけている¹⁵。

さらに、杉浦教授が小林昭寛教授らとともに策定を主導した「知的財産学における教育課程編成上の参照基準」が紹介される見込みである²⁴。この参照基準は、知財学を学ぶ学生が修得すべき資質を「8つの専門的能力」と「3つの汎用的能力」として定義したものであり、大学教育と産業界のニーズを結ぶ基軸として機能している²⁴。

また、杉浦教授が近年の論文で提唱している「知的財産教育のスコープ」概念についても詳細な解説がなされる¹⁰。知財教育の対象は高等教育機関にとどまらず、初等・中等教育における知財創造教育(創造性と権利尊重の素養育成)から、大学での専門教育、さらには社会人・実務家に対する高度なリスクリングに至るまで、ライフステージに沿って垂直的に接続されるべきとされる¹¹。同時に、専門学科にとどまらず、普通科高校、工業高校、商業高校等への探求学習対応型知財教育や、理工系・文系を超えた横断的教育といった水平的拡張の重要性が説かれる²⁰。

3.4 関西発の知的資産エコシステムと産学官共創

講演の締めくくりとして、大阪工業大学が実践する具体的な事例を交えながら、大学、企業、行政が連携した「関西発の知的資産エコシステム」の構築が提示される²。

杉浦教授は、特許庁の「I-OPEN事業」への参画や地域ブランドの支援、大学発スタートアップ創設における知財活用の研究などを精力的に行っており、地域の知的資産を発掘・育成する取り組みを推進している¹⁰。本フォーラムの会場である大阪工業大学梅田キャンパス自体が、産学官連携と知財情報の受発信プラットフォーム(「関西知的財産セミナー」等の開催拠点)として機能している¹。

杉浦教授は、大学が単なる知財人財の供給源にとどまらず、地域の企業やスタートアップが抱える無形資産を分析し、事業化を伴走支援するイノベーションの触媒となるべきであると論じる¹⁶。関西圏のグローバル企業から中小企業、スタートアップにいたるまで、アカデミアと密接に結びつくことで知的資産が循環する社会モデルの重要性が訴えられると考えられる¹。

4. パネルディスカッションへの論点接続と総合的結論

講演④に続いて開催されるパネルディスカッション「『知財を経営に活かす人財』のあるべき姿」(モデレータ:KDDI 川名弘志 氏)において、杉浦教授はアカデミアおよび人財育成の識者として討議に加わる¹。

パネラー	専門的立場・背景	パネルディスカッションでの焦点と杉浦教授との論点接続
清水 祐樹 氏	内閣府知的財産戦略推進事務局 参事官 ¹	政策・制度論: 国家戦略としての知財投資推進とガバナンス・コード新原則4-1の定着 ¹ 。 → 杉浦教授は、制度を社内で機能させるための「企業内受け皿人財」育成と大学カリ

		キュラムの整合性を提示 ² 。
高崎 充弘 氏	株式会社エンジニア 代表取締役社長 ¹	中小企業経営:MPDP理論に基づく現場発の知財・ブランドによる商品化・ヒット作創出¹。 → 杉浦教授は、中小企業の経営者を支える知財マインドを持った社員教育や地域伴走支援(I-OPEN等)の有効性を主張¹⁰。
安部 剛夫 氏	ダイキン工業株式会社 知的財産部長 ¹	大企業組織:事業部門・研究開発部門と一体となったクリエイティブな知財部運営¹。 → 杉浦教授は、AI時代に知財部員が「コンテキスト・アーキテクト」として事業価値を最大化する人財像を補強⁴。
杉浦 淳 氏	大阪工業大学 知的財産学部 教授 ¹	教育・アカデミア:上記すべてのニーズに応える知財人財の育成プロセスと産学官共創モデルの提示 ¹ 。

パネルディスカッションにおいて杉浦教授は、他のパネラーが提起する「政策」「中小企業の実利」「大企業の組織課題」という各論点を「人財育成」という軸で統合する役割を果たす¹。特に「どのようなスキルを持った人物であれば知財を経営に活かせるか」という議論に対しては、情報俯瞰力・法的バックグラウンド・権利化力に加え、経営陣に知財の価値を解りやすく翻訳して伝えるコミュニケーション能力の重要性を説く見込みである²。

以上の分析を総合すると、杉浦淳教授による講演④「知的資産と知財教育」は、単なる教育実践報告にとどまらず、日本の知財・無形資産ガバナンス政策の実効性を担保するための「人的資本論」としての洞察を提供するものと結論づけられる¹。ガバナンス・コード改訂と生成AIの進化が同時に進行する現代において、知的財産を経営の力に変える核心は、AIを道具として使いこなし、法・技術・経営を統合して知的資産の価値を最大化できる「人財」の育成と配置にあるというメッセージが、本講演を通じて力強く提示されることとなる²。

引用文献

1. 「MPDP 理論による中小企業活性化戦略」講演内容の予測,
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/bfa59b2dfe91cd2871d3.pdf>

2. 【知財・無形資産ガバナンス協会×大阪工業大学共催】「関西 知財・無形資産ガバナンス・フォーラム」開催のご案内(9/4開催),
https://chizai-portal.inpit.go.jp/madoguchi/osaka/news/_94.html
3. 関西 知財・無形資産ガバナンス・フォーラム, <https://yorozuipsc.com/blog/3440445>
4. 【講演内容予測レポート】 - よろず知財戦略コンサルティング,
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/a2e43cbb82e497df17e5.pdf>
5. 関西知財・無形資産ガバナンス・フォーラムにおける高崎充弘氏の講演内容予測:
MPDP理,
<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/515d6103a1f0f18998bf.pdf>
6. クリエイティブな知財部運営に挑むダイキン工業の取組み,
<https://yorozuipsc.com/blog/2415002>
7. 杉浦 淳 - Wikipedia,
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%89%E6%B5%A6%E6%B7%B3>
8. 杉浦 淳先生(すぎうら じゅん)の授業・動画 - Schoo(スクー),
<https://schoo.jp/teacher/3155>
9. 知的財産大学院協議会(JAUIP)セミナー (3/28) 知財人物列伝II - 大阪工業大学,
https://www.oit.ac.jp/news/p_kouen/conference260328.html
10. 研究者詳細 - 杉浦 淳 - 大阪工業大学,
https://research-db.oit.ac.jp/html/100001046_ja.html
11. (第119回)知財実務オンライン:「知的財産教育の入口と出口」(ゲスト - YouTube,
<https://www.youtube.com/watch?v=z2i-i8MSfgw>
12. 知財教育分科会2025年度活動報告および2026年度活動計画 - 一般社団法人 日本知財学会,
https://www.ipaj.org/bunkakai/chizai_kyoiku/event/2025houkoku_2026keikaku.html
13. 組織 | 知的財産大学院協議会 - 一般社団法人 日本知財学会,
<http://www.jauip.org/aboutus/organization.html>
14. 杉浦教授室 - 大阪工業大学, <https://www.oit.ac.jp/laboratory/room/216/>
15. 大阪工業大学知的財産教育の20年: 守りの知財から攻めの知財へ - CiNii Research,
<https://cir.nii.ac.jp/crid/1520300152334009728>
16. 研究者詳細 - 杉浦 淳 - 大阪工業大学,
https://research-db.oit.ac.jp/html/100001046_ronbn_ja.html
17. 研究者詳細 - 杉浦 淳 - 大阪工業大学,
https://research-db.oit.ac.jp/html/100001046_knkyu_prsn_1_ja.html
18. Japio YEAR BOOK 2025 寄稿集,
<https://japio.or.jp/00yearbook/yearbook2025.html>
19. 関西知財セミナー (6/11) 知財業務におけるAI利用の現状とこれから ～「労働集約型」から「知識集約・戦略型」へ～ | 大阪工業大学,
https://www.oit.ac.jp/news/p_kouen/kansai_seminar260611.html
20. 知財教育分科会,
https://www.ipaj.org/bunkakai/chizai_kyoiku/event/kenkyukai_20240630.html
21. KAKEN — 研究者をさがす | 杉浦 淳 (90758814) - NII,
<https://nrid.nii.ac.jp/ja/nrid/1000090758814/>
22. 関西知財セミナー (8/20) グローバル化時代における知的財産権侵害の考え方 | 大阪工業大学, https://www.oit.ac.jp/news/p_kouen/kansai_seminar250820.html

23. 第7期会員交流会報告 - 大阪発明協会, <http://www.jiiiosaka.jp/kouryukai-7.pdf>
24. 分科会:第61回定例研究会 - 一般社団法人 日本知財学会,
https://www.ipaj.org/bunkakai/teireikenkyukai/event/kenkyukai_20220825.html
25. 定例研究会 - 一般社団法人 日本知財学会,
<https://www.ipaj.org/bunkakai/teireikenkyukai/teireikenkyukai.html>
26. 分科会:第95回定例研究会 | 一般社団法人 日本知財学会,
https://www.ipaj.org/bunkakai/teireikenkyukai/event/kenkyukai_20260211.html
27. 関西知財セミナー (8/5) 生成AIが知財業務をどう変えるか ～現状と展望～ | 大阪工業大学, https://www.oit.ac.jp/news/p_kouen/kansai_seminar260805.html
28. 大学院知的財産研究科 セミナー等開催実績 - 大阪工業大学,
https://www.oit.ac.jp/academic/graduate_ip/archives/graduate/archives/